

執筆者一覧

| | | |
|----------------|-----------------------|----------------|
| 阿部一晴 | (教授) | 応用情報科学) |
| 伊藤美加 | (准教授) | 認知心理学) |
| 岡田敬司 | (教授) | 教育学) |
| 袁川惠理子 | (准教授) | 日本語学) |
| Carolyn Wright | (教授) | 英語教育) |
| 石谷みつる | (准教授) | 臨床心理学) |
| 神庭直子 | (講師) | 健康心理学) |
| 千野美和子 | (教授) | 臨床心理学) |
| 岡野弘美 | (講師) | 社会福祉学) |
| 中嶋敏子 | (教授) | 言語障害治療学) |
| 南多恵子 | (講師) | 社会福祉学) |
| 赤松隆滋 | (ピースオブヘアー 代表) | |
| 田中慈子 | (講師) | ピアノ・音楽教育) |
| 智原江美 | (教授) | 体育学) |
| 鍋島恵美 | (教授) | 保育・ことばの表現) |
| 和田幸子 | (准教授) | 保育・音楽表現) |
| 下口美帆 | (准教授) | 美術) |
| 大澤香奈子 | (講師) | 服飾文化・ファッション造形) |
| 小山理子 | (講師) | 総合政策科学) |
| 朝比奈英夫 | (教授) | 日本文学) |
| 藤田洋治 | (山形大学地域教育文化学部 教授) | 日本文学) |
| 池原陽斉 | (東洋大学人間科学総合科学研究所 研究員) | 日本文学) |
| 肥留川嘉子 | (教授) | 日本近世文学) |
| 隅田三鈴 | (京都光華女子大学大学院文学研究科修了) | |

編集後記

これまで京都光華女子大学と同短期大学部とで別に刊行してきた『研究紀要』は、今号より統合することになりました。伴って、誌名や表紙のデザインをどうするか等の問題が起こってききましたが、大短合同の紀要編集委員会にて検討の結果、この度お届けするような形に落ち着き、無事刊行に至りました。御寄稿くださった方々をはじめ、刊行までの種々の労をお取りくださったみなさまに、心より御礼申し上げます。

そもそも本学の『研究紀要』は、光華女子短期大学創設以来十年を経た昭和三十五年(一九六〇年)に、『光華女子短期大学 研究紀要』第一集として創刊されました。そして、昭和三十九年の大学文学部の新設を受け、翌年発行の第四集(光華学園「創立二十五周年記念号」)から、大学と短大との合同誌となり、表紙も阿部現亮学長(当時)に揮毫いただいた「研究紀要」の題字を掲げました。

その形が第十八集まで続いた後、昭和五十六年発行の第十九集より大学と短期大学とでそれぞれに発行することとなり、昨年度の第五十二号に至りました。その間、大短おのおの題字を活字体に戻す等の小改変はありながら、A5の判型や表紙のデザインはほぼ同じでしたが、平成二十三年度の第四十九号(短期大学部は第四十九集)で判型をA4判に改めると同時に表紙のデザインを一新し、見た目も大学と短期大学部とでまったく異なる様相となりました。それがこの度統合され、今五十三号の姿となった次第です。

右のような歴史をたどってきた本学『研究紀要』ですが、その創刊の辞で阿部現亮光華女子短期大学学長は、次のように述べられました。「学問の道には、一つのきびしさがある。……世相は、ややもすればうつろい易きものを愛し、刹那的なものを追う傾向にあるが、大学の門をくぐる者は、それとは違った世界を持つていくべきであり、「この機関誌が大学の本来の役割の一つを果すものとして、その最初の成果を挙げたことに、先ず喜びを表わしたい」と。大学と短期大学部との統合誌となり、ある意味で元の形に戻ったとも言えるかもしれない今号は、創刊の辞に言挙げされた精神をあらためて思い起こす機でもあるように思われます。

(肥留川嘉子)

京都光華女子大学 研究紀要 第53号
京都光華女子大学短期大学部

2015(平成27)年12月1日 印刷

2015(平成27)年12月1日 発行

編集・発行 京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38
電話 (075) 325-5306(代)

印刷 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入
電話 (075) 343-0006(代)